

錦繡の北東北裏岩手山稜を歩く 八幡平から岩手山へ

実施日 2016年9月29日(木)～10月2日(日)
 天候 9/29 小雨 9/30～10/2 晴れ
 リーダー 涌井 良明
 参加者 涌井良明、石附智江、中村友子、宇野輝代、濱田優美子、石附恵理子、峯川弘子、宮崎敏男 計8名
 費用 JR29,480円(東京起算正規)
 1,590円 宿泊(9/29)11,260円、(9/30・10/1)0円 2,200円
 合計44,530円
 タイム 9/29 盛岡駅(8:45～9:10)八幡平山頂BS(10:55～11:20)八幡平頂上(12:17～40)昼食)藤七温泉(14:10)泊
 9/30 藤七温泉(5:30)裏岩手縦走登山口(5:50～55)畚岳(6:15～30)諸桧岳(7:25～30)前諸桧岳(8:20～25)嶮岨森(9:10～25)大深山荘(10:00～10)源太森分岐(10:38)大深岳(10:45～11:00)小畚岳(12:04～30)P1448(12:50)三ツ石岳(13:30～45)三ツ石山荘(14:20)泊
 10/1 三ツ石山荘(6:15)大松倉山(6:57～7:00)犬倉山分岐(8:30～40)犬倉山(8:50～40)姥倉山肩(10:10～45)昼食)切通(11:28)鬼ヶ城(13:15)御神坂道合流点(14:30)不動平避難小屋(14:40)泊
 10/2 不動平避難小屋(4:40)火口壁(5:18)岩手山頂(5:55～6:10)焼走り下山口(6:15)平笠避難小屋(6:40～7:20朝食)ツルハシ分かれ(8:10～20)第一噴出口跡(8:50～55)第二噴出口(9:10～15)焼走り登山口

(10:35)焼走りの湯(10:40～13:30)盛岡駅(14:15～15:07)

9/29 盛岡駅は小雨が残っていた。ギリギリ雨も止んでいることも期待していたがまあ仕方ないか(-_-)

という事で、9時10分八幡平自然散策で出発。11時過ぎ八幡平頂上BSへ、本来は茶臼岳・黒谷地湿原を歩く予定だったが、そぼ降る小雨に気分の萎え気味でコース短縮、遊歩道歩きになった。



ガスで見通しのないPから山道(といっても遊歩道)を進み、鏡沼、めがね沼脇を過ぎて展望台と立派な標柱の立つ八幡平山頂に着く。勿論展望台からの眺望は全くなし、雨を避けつつ展望台下で昼のパンをかぶりついた。



た。ガマ沼から見返峠そしてBSに戻り、レストハウスで一息ついてから、今日の宿の藤七温泉

へアスピーテライン(車道)を下る。露天風呂群を見るようになって藤七温泉に。早速、風呂に向かうが一旦吹さらしのわずかな距離が、寒ーい！でも湯に浸かれば少し温めだがイイ気持ち(^-^;)山菜尽くしのバイキングの夕食に腹も一杯、明日からの天気期待しつつ寝床にオヤスミzzz...

9/30 今日は長丁場なので朝食は△にしてもらって、5時半に宿を出る。

車道を登山口に向かってゆるく登るが、キレイな朝なので辺りが朱く染まって爽快感が心地良い。目指す岩手山



も特徴ある片富士の姿を望める。

車道脇の裏岩手縦走登山口からはまず畚岳に向かう。山頂分岐まで緩めに登り、山頂を往復する。畚岳はぐるっ



と展望台で素晴らしい眺めだ、雲海にブロッケンもどき？も、昇った太陽に向かって見る逆光

の岩手山も印象的だ。

縦走路に戻って次は諸松岳に向かう、笹

の原、シラビソやトド松の森、点々と彩り添える黄葉、流れる朝霧まさにイメージ映



像を見るような風景が展開していく、登降も少なくやはり予想通り魅惑の縦走路のようだ。殆ど登った感じないまま諸松



岳の標柱に着く。展望はない地味な頂きだ。笹と這松に伸びた道を岩手山が正面に、或いは左手に、右手には秋田駒の姿を望んだりし

つつ快適な縦走が続く。

東北らしいたおやかにうねる山を縫うように進んで行く道は、この眺望と雰囲気は日本の絶景から外れることはないだろう。距離も長く営業小屋もないことから人が少ないのも好ましい山域だ。これ

からもこの環境がこのまま次世代も味わえることを願いたい。秋の色付きの鮮やかさも更に増していくようだ。縦走なので登降はあるが苦しむほどのものではないのもうれしい。ツンと尖ったピーク



が近づき登った所が嶮岨森となるが、見事な色付きに感嘆してしまう。そして今日はこの先、初めて見る程に見事な自然の錦繡が続くことになる。



嶮岨森からも穏やかな道を辿り、きれいに管理された大深山荘にでる。100ほど登りがあっ

て大深岳だ。標柱がなければ気付かないような穏やかな頂である。

大深岳の緩めの下りの途中で、右に秋田駒へ続く縦走路の分岐を過ぎる。

下りきって前に見えるいかにもヤマ

ー！という形の小畚山の登りになる。標高差130mの今日一番の急登だ。登り切ると小畚山、ア



レアレ！どこから現れたのか大勢の登山者が、素晴らしい眺望と秋の盛り山頂の憩いを楽しんでいる。

今までの静かさとは一変だが、素晴らしい秋山に変わ



りない。この先は山頂に小屋が乗っているようにも見える三ツ石山を越せば良

いので我々もしばしゆっくりする。

見事な紅葉に癒されながら小畚山を下り、1447mの三角点ピークを越し三ツ沼の池糠群を抜けると遠目には小屋にも見える岩が乗った三ツ石山だ。早速石積みケルンの脇の岩のてっぺんに登って喜んでいる。煙と〇〇は高い所が好きって言うからね。なので？全員で写真撮って、



さあ、今夜の宿、三ツ石山荘に下るよー！岩混じりから階段、イヤーなぬかるみも下って今宵の宿、三ツ石避難小屋に下りた。2階建て土間には大きな薪ストーブもあるきれいな小屋である。我々以外には2階に数人、快適な避難小屋1泊目となった。

10 / 1 今日岩手山の懐深くへ向かうことになる。6時15分、比較的ゆっくりめに小屋を後にする。大松倉山に向かって笹と灌木の山道を登る、馴染みのある普通の山道と感ずる道だ。片側が沢状(谷)となって一気に落ちている山稜に出てしばらくで大松倉山の標柱を見る。



尾根を鞍部へ下り、小さく登降して犬倉山分岐に出る。ここから網張温泉(リフトあり)への下りが分かれる。



僅かで犬倉山の山頂部に出て、周回路で山頂付近を散策、青空と山肌の紅葉が美しい。

縦走路へ戻り姥倉山の肩まで160程登ることになる。しばらく樹林帯を行き、森林限界になると一気に急登になり我慢が終わると姥倉山の肩(正式名ではない)に登り着く。



辺りは地熱が高く陥没注意でロープ規制もある。ちょっと触ってみると確かに地面が暖かい。それが丁度良いのか？見事な苔の絨毯もある。天気も眺めも良いので大休止、ランチタイムとした。

網張から来た数パーティと遭遇したが、日帰りではきついこともあり、岩手山方



面へは人も少ないようだ。黒倉山は巻いて切通へ。

お花畑ルートか鬼ヶ城経由かの分岐だが、風なし・天気よし・花なしの今日は鬼ヶ城経由に行くことにする。尾根の登りを進み徐々に岩の姿が見え始め、火山らしい奇岩も見られるようになる。概ね尾根の右側を登降しながら進むが、何回も登降が繰返され意外と時間もかかる。但し、対面の屏風尾根を始め眺望も素晴らしく、更にこの時期、山肌を彩るアクセサリーはまさに満艦飾、これでもか！と楽しませてくれ飽きることはない。おかげで疲れも感じて暇がない！？って言うておこう(@@;)



岩場もあるが、火成岩なのでホールド・スタンスとも豊富しかも滑りにくいので歩き易い。狭いルンゼを登る箇所もあったが、困難ではなく皆さん楽しそうにも見えたのですが、いかがでしたか？ そろそろ飽きた頃に御神坂ルートと合流、下



には不動平避難小屋と八合目避難小屋が見える。不動平と言うだけあり広くとても気持ちよい平坦地に下り、不

動平避難小屋へ、明日の山頂へと無料泊できるので、ここを今宵の宿とした。八合目避難小屋の御成清水で水を確保日暮れ前に小屋前で食事なかなかの時間だった。

今日はシーズンの土曜日で、1階はほぼ満員、それでも十分の寝場所は確保。

明日は頂稜で日の出が見たいので、早めに寝る。明日はフィナーレに相応しい行程を期待しつつ寝る。

4時、まだ横になっている人も多いが、静かにゴソゴソと片付け~パッキングして外へ。昨夜は風の音が気になったが、やはり少し風がある。4時45分、ヘッドランプを頼りに小屋からすぐに岩手山山頂への登りになる。チラチラ下界の明かりも煌めいて、東側の空はぼんやり薄明るいようだ。山頂火口壁へ一気に急登の道をジグザグに行く、八合目避難小屋からも数パーティが日の出登山で登っている。

山頂火口壁(縁)に登りつくともやはり風は冷たい。展望は良いが日の出ポイントには少し雲があるようだ。じっとしていると寒いので右に半周するように山頂にむかう。火口内経由で下る道を分けて僅かで、日の出を迎えた。雲間から黄金色の煌めきが周囲を照らし始めた。信仰の山でもあり、火口外輪には囲むように石仏も鎮座している。外輪に沿ってぐぐっと登りになった先が山頂になる。

山頂火口壁(縁)に登りつくともやはり風は冷たい。展望は良いが日の出ポイントには少し雲がある



冷たい風は相変わらずだが、八幡平から3日かけて辿り着いた早朝の岩手山が今回のゴールとなった。一等三角点が設置されている、独立峰に近いので遠望も良い。岩木山、早池峰山も見える。寒さも忘れてひとしきり証拠写真撮影に興じてから、長い下山にかかる。外輪をそのまま少し下って、焼走り方面への下山路に入る。今までの冷たい西風もぴたりを止んで、火山らしい砂礫の急な下りになり、やがて灌木帯にな

冷たい風は相変わらずだが、八幡平から3日かけて辿り着いた早朝の岩手山が今回のゴールとなっ

って平笠不動の避難小屋も近くなる。小屋に降りたって小屋前で、朝食兼の大休止にした。山頂部は既に頭上に高くなっていった。



小屋からは灌木からダケカンバなどの高山樹林帯を下るようになる。所々で眺望もあってアクセントになる。ツルハシ分かれで上坊神社方面の道と分かれる。道は樹林から火山の砂礫交じりになり富士山御中道のような感も？ 第一・第二噴出口を過ぎると傾斜も緩くなってくる。辺りは紅葉から緑が濃くなってくる。下界はまだ秋の入口付近のようだ。

そのままさらに平坦に近くなって焼走り登山口に降り立った。4日間、お疲れさまでした。

左へ僅か歩いて、焼走りの湯(みちの駅でもある)で汗を流して、久し振り？



の下界の食事で山も腹も満足マンゾク。

🚗で盛岡駅へ、帰京される天皇陛下より一足先に🚶へ。

今年の北東北の2大山岳ツアーもこれにて無事完了です。

この裏岩手縦走は2年越しの計画になったが、予想した通り素晴らしい縦走路だった。また、参加された皆さんの協力にも感謝です。アリガトウ！！

東北の山って良いもんでしょ！！

終りに岩手山を愛した啄木の言葉を。
『ふるさとの山に向ひて 言ふことなし
ふるさとの山はありがたきかな』

(記&写真・涌井 良明)
(写真提供・宮崎 敏男)

